NIE実践報告

1．タイトル：☆出前講座を取り入れた授業~　活字メディアの使命と信頼性について考える

2．学校名

北海道旭川商業高等学校　定時制過程

3．実践者名（代表者名）

岸　美千代

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語・現代文　23人

6．単元（本時の学習課題）名

広がる読書（新聞記事の出前講座から活字メディアについて学び考える）

7．目標(狙い)

新聞記事をはじめとする活字メディアの使命と信頼性について考える。

8．評価の視点

活字メディアに関する自分の考えを論理的に述べることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

広がる読書（「映像をしのぐ言葉の力」~　井上　ひさし）　8時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

本時の位置づけ・・・　第4~　5時：2時間続きで新聞記者の出前講座を受講する。

学習の展開・・・・・　①意見文を書くことを念頭におきメモをとる。
②恥ずかしがらないで講師に質問する。
③講話のまとめをメモする。

指導上の注意・・・・　①授業前に聞くマナーや態度、メモの取り方をあらためて指導する。
②メモは自分が理解できる書き方で良い。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・体験に基づいた交通事故や夕張炭坑事故の取材と記事の奥にある社会問題についての話が心に残った。
・ニュースはインターネットで見れば良いと思っていたが、講話を聞いて新聞の信頼性や使命、責任について知り、ちゃんと新聞を読もうと思った。

12．成果と課題

生徒は、新聞記者の話を聞くのは初めてである。非常に緊張して講師の方をお迎えしたが、身近な例題から講話が始まり、交通事故の新聞記事から医療や過疎の問題、高齢者問題を読み取っていくことに考えることの大切さを実感した。また、夕張炭坑事故では悲惨な事故の実態とどんな状況の中でも取材をしなければならない記者の仕事について経験談を聞き、充実した授業となった。講話の内容が充実していて、話に夢中になりメモをとる余裕のない生徒も多かったが、大変勉強になった。